

# コロナ禍で露呈した社会制度の問題点 コロナ後の島根のあり方



1月27日には「まん延防止等重点措置」も適用され、飲食店では県の認

めました。感染者数を190人の



支払われるのでそれだけでは良かったかなと思いが、特にオミクロン株では学校や保育所、高齢者施設でのクラスターの発生も多く出ていますので、飲食店だけが規制をされるのは本当に気の毒に思います。

知事とクラスターが発生した市の市長が話あって学校の一時休業措置もされたところですが、なかなか急激に感染者が減る

3月議会が終わると、新しい年度が目の前です。新年度もしっかり県政の課題に取り組んでまいりますので、変わらぬご支援をどうぞよろしくお願

ICＴ機器をうまく使って画面越しでも先生や友達の間が毎日見られるようにすることや今回は「事業復活支援金」制度ができましたが、今後も飲食店だけでなく痛んでいる職種の方々の支援についても支援ができるような制度にするよう国に働きかけることが急がれます。

学校が休校になった時に、息まで数年はかかりそうです。コロナウイルスとうまく付き合えるよう知恵を絞らないといけません。

島根でいえば「島根創生計画」がコロナのため足踏みしています。コロナ禍の様々な教訓を生かして見直し、本当に安心して暮らせる県であることをアピールできることが大切です。

さて、新しい年もコロナウイルス感染症の蔓延の中で迎えることになりました。10月過ぎから年末にかけてデルタ株が急速に収束し、県内では感染者ゼロの日も続いたので、皆ほっとしていただく

証店以外はお酒を提供できなくなり、認証店でもお酒の提供は午後8時まで、という厳しい措置が取られました。

足掛け3年もこういう状態が続く、外に出かけるのも憚られる毎日が日常となつています。大人はともかく、特に子どもたちの心の健康が気になります。過去の新型感染症

規模が多いシングルマザーやアルバイトで大学生活を支える学生のこと、多くの部品を海外の工場が生産している企業の在り方、世界一のベッド数

2022年新しい年が明け、既に立春も過ぎています。年を重ねるごとに時間の流れが速く感じますね。皆様はどうお感じでしょうか。大変遅くなりましたが、後半の「議会だより」をお届けします。

## 風だより

県議会議員はくいし恵子の



発行者 島根県議会議員  
はくいし 恵子  
2022年3月1日発行  
拡大版 VOL.31

## はくいし事務所

〒690-0882  
松江市大輪町414-12  
TEL・FAX  
0852-23-0880

HPアドレス  
<http://www.hakuishi.sakura.ne.jp/index.html>  
※是非、お立寄りください。

## テーマは「切って、使って、植えて、育てる」

### 全国植樹祭開催



5月30日、コロナの為1年遅れになりましたが、約50年ぶりに島根県で全国植樹祭が開催されました。参加者も少なく天皇皇后両陛下も御所からオンラインで参加されるなど、異例の開催となりました。島根県は約8割を森林が占める県です。古くは「たたら製鉄」で欠かせない資源としてこの循環が回っていました。しかし、近代化の波の中で燃料は石炭や石油へと変わり、炭やまきは使われなくなったため森林は手が入らず荒廃が目立ちます。でも地球温暖化による様々な弊害が目立つようになり、再び森林や再生可能なエネルギーである炭やまきの出番が回ってきたの

だと思えます。植樹祭を契機に島根県内でも、地元産材を使う建設事業者への支援などに取り組んでいます。学校で子ども達が使う椅子を地元産材にするなど新しい発想で県内需要を喚起し「切って使って植えて育てる」好循環ができることを願います。再生可能エネルギーとしてもチップボイラーや林地残材を使ったバイオマス発電など地球にやさしい資源としても見直されつつあるように思います。県では農林大学校に新しく林業を学ぶ学科も新設され、若い人が林業に従事する割合も増えつつありますので、期待したいと思えます。

### 波積ダム定礎式

### 「斎鎚(いみづち)の儀」 珍しい儀式に参加

2021年3月24日は、江津市波積町の都治川の建設中の波積ダムの「定礎式」が行われ、建設環境委員長として参加いたしました。定礎式とは、ダムの永久堅固と安泰を祈願する式典だそうです。当日は丸山知事の式辞に始まり、工事報告や来賓祝辞などが粛々と進み、関わった業者の職員と県職員による礎石搬入や清めの儀式も厳かに行われた後、いよいよ「定礎式」が執り行われることに。



これはスコップでモルタルを入れて礎石を固める儀式です。次に「斎鎚(いみづち)の儀」で、礎石の周りに入れたモルタルを鏝で均す儀式です。そして最後に木槌で礎石の隅を打ち据える「斎鎚(いみづち)の儀」で、私はこれに参加させてもらいました。礎石の周りには江津東小学校の生徒作成のメモリストーンが並べられ、その後クレーンで運ばれたバケットからコンクリートが注ぎ込まれて礎石が埋納されました。くす玉が割られ、万歳三唱で儀式は終了しました。そうそうダム建設があるわけではないので、部長を始め県の幹部の皆さんも初めて参加された方が多いそうで、とてもタイムリーに委員長を拝命し珍しい儀式に参加させていただいて本当に感謝でした。

# はくいし恵子の県議会報告



## 11月県議会

一般質問から抜粋  
(11/25~12/22)

## 9月県議会

一問一答から抜粋  
(9/9~10/8)

10月に入って、コロナ第5波がやっと収まってきました。県民の皆様もホッと一息ではないでしょうか。でも第6波も来るといわれています。今までは、みんながコロナ関連の質問なので避けてきましたが、今回は宿泊療養と自宅療養について質問しました。東京では入院できず自宅に亡くなる人が相次いでいましたので、皆さん不安に思っておられるだろうと思います、県での対応を改めて聞きました。

質問・児童の通学路における交通安全の確保について  
【県警本部長】 県警では本部和警察署が緊密に連携し、ハード、ソフト両面から対策を行い、県土木とも共有している。  
【教育長】 県教委にはH26年度以降は国から報告を求められていないので報告は受けていない。県教委、県土木、県警の連携はない。

質問・ヤングケアラー(家族の介護等を担う子ども)について  
【健福部長】 まずは教委医療、福祉等関係機関への啓発を行ったうえで実態把握をしていく。方法や対象について有識者の意見も参

### ヤングケアラーに支援を

【健福部長】 まずは関係各課がしっかりと連携することが大切。現在の状況と今後の取組を伺う。  
【健福部長】 まず部内職員への研修を行った。さらに関係各課連携により、様々な分野の団体に啓発が進む

(2)千葉の事故を受けて改めて通知が出ている。これを機に県教委が県全体の状況を把握して欲しいが考えを伺う。  
【教育長】 市町村の報告が

### 通学路の安全確保と コロナの療養対策の強化を

【健福部長】 ハイリスク者以外は医師の診察により、重症化リスクを判断し、リスクの低い場合、原則宿泊療養とする。やむを得ない理由があれば自宅療養もある。症状が軽快して自宅療養となる場合もある。  
(2)宿泊療養、自宅療養の場合病状チェックや悪化時の入院はどうなっているか



【健福部長】 12月からヤングケアラーサロンを開催予定と聞いている。連携して

【健福部長】 宿泊施設は常駐の看護師が確認し、当番医師に報告。自宅の場合は訪問看護の看護師が電話確認し保健所に連絡。必要があれば医師が往診する。いずれも入院が必要であれば救急搬送する。  
(2)妊婦の患者はどう対応するのか伺う。  
【健福部長】 重症化の恐れがあるため、症状の有無にかかわらず入院。必要な治療が提供できる体制を確保している。  
質問・コロナ感染症の情報発信について

【健福部長】 重症化の恐れがあるため、症状の有無にかかわらず入院。必要な治療が提供できる体制を確保している。  
質問・コロナ感染症の情報発信について  
(1)疫学情報に基づいた、個人を特定しない情報をわかりやすく発信したほう

### しまね留学生対策の 答弁に矛盾

【商工部長】 しまね若者サポートステーション等の支援員が認識を深め、1人ひとりに寄り添った支援ができるよう取り組む。  
【教育長】 寄宿舎は通学が難しい県内生徒のためのものであり、県外生の増加を理由に新増築を行う考えはない。移住してくる県外生は市町村の住民であり、市町村において地域住民の住宅施策として取組んで頂く

【教育長】 今年9月施行の法律「医療的ケア児及びその家族に対する支援について」の趣旨を踏まえ、市町村教委が県立学校で実施している運営協議会、担当者会議、学校看護師連絡会へのオブザーバー参加を促すなど体制構築に向けた支援を行う。また島根県特別支援連携協議会でも体制整備の在り方の検討を進める。

隠岐水産高校、隠岐高校調査

7月19日〜20日に隠岐水産高校と隠岐高校の視察に行ってきました。以前から施設の改修などの希望があり、是非現場を見てほしい、と要望があったからです。

隠岐水産高校

実習環境の整備が急務

多くの改善が必要

隠岐水産高校は食品加工に力を入れ、特に「サバ缶」や年末の「新巻鮭」が有名です。ところがそれを生徒たちが加工作業をする実習棟に様々な課題がありました。

生徒が多いのに女子トイレがない、更衣室はあるが実習材料や商品の収納場所がないので倉庫として使用しているため実習着に着替える場所がない、狭くて加工材料を置く場所がない、食材を保存す

る冷凍庫の場所が実習棟と離れており、保存や取り出しのために外に出なければならぬ、汚水処理の設備が十分ではないなどの問題点を聞き、実際に見て、生徒が充実した実習をするためには様々な改善が必要だという感想を持ちました。

隠岐高校

インクルーシブ教育推進センターの設置予算を

今回の要望に限らず、県立高校からは度々施設整備の課題を聞いています。以前にも高校魅力化に伴い、あちこちの高校で生活の場である寄宿舎が足りないという声を聞き、何度も質問で取り上げたり、執行部に話をしてみました。

隠岐高校では来年度からインクルーシブ教育推進センターが2人配置される予定で、インクルーシブ教育推進センター執務室を用意しなければならぬのですが、校内には適切な教室がないとのことでした。

教室から離れた場所にある教員の更衣室や休養室を使うことができない、労働基準法上も休養室は必要なので別途考えなければならぬ。現状では、できれば是非現状を知っていたら、センター設置のための環境整備予算をつけてほしい、という要望でした。

高校魅力化に伴う環境整備に消極的な県 子どもたちの未来のために環境整備を

に建設することはできない、という回答しか返って来ません。隠岐水産高校の実習棟についても「県の建

物は長寿命化予算の範囲でしか対応できない」という回答に終始するばかりでした。

も含めて考えなければ、と思いますので引き続き現場の声をしっかり聴き、必要なら現場調査も行っていきたいと思っています。

会派県内調査（隠岐島前）

8月23〜25日、隠岐島前3町村へ会派調査に伺いました。

知夫村

島全体が学校 18才の女性が和牛農家に



「隠岐一番の牛飼いが夢」 和牛農家の徳若未来さん

知夫村では教育委員会から「島留学」について伺い、生活の場である「はぐくみ寮」も見学しました。人口600人の小さな村では、島全体を学校と捉え、島のあらゆる場所や人から学ぶ環境を整え、全ての学級が10人以下という少人数であることが生かされ、1人ひとりが自分の役割を自覚し、活躍できるよう持っている

力を発揮できるよう支援しています。「島留学生が5年間で100個やりたいことを叶える」取組を通して、壮大な自然と地域の力を借りながら熱中できるものを見つけられるよう応援しています。

子牛を見つめる未来さんのかわいくてたまらない、という表情が印象的でした。また子牛を生み終えた母牛（経産牛）を肥育して肉牛として出荷することに挑戦しているそうです。

次に、18歳で繁殖和牛農家となった「未来畜産」の徳若未来さんを訪ねました。実家が畜産農家ですが、女性には畜産業は無理だろうと本土

の高校に行ったが、島の穏やかな暮らしや人間関係が忘れられず2年で退学し、島に帰って実家とは別に21頭を飼育しておられます。

小中一貫教育で相互乗り入れ 町民参加のコミュニティ図書館

西ノ島町

次の日は西ノ島の教育委員会で「小中一貫教育」について調査しました。もともと小中一貫校を想定して校舎を建てたことで、体育館などとても広く、双方が行き来しながらもそれぞれでも活動できるように考えられていました。

先生にも思わぬ効果があるのだなと思いました。小学校で中学校の先生が授業したり、中学校に小学校の先生が支援に入ったり、と相互乗り入れもされているとのことでした。

私が一番行ききたかったのは、同じく西ノ島町の新しい町立図書館「コミュニティ図書館 いかあ屋」。図書館界で有名な岡本真さんが関わって作られたと知っていたからです。



（コミュニティ図書館）

町職員が複数の業務に ジオパークホテルがオープン

海士町

最後の日には海士町へ。来るたびに新しい取組を伺える海士町ですが、今回は「半官半民」について調査しました。

施行されたばかりの「特定地域づくり事業共同組合」制度に基づき「海士町副業協同組合」で、町職員として雇用され、複数の業務に携わる仕組みですが、海士町では以前から観光協会がマルチワーカーという名称で、

### 女性議員の必要性を講義

1月にジェンダー学の講義をしている大学教授に「女性議員としての苦勞やなぜ女性議員が必要か、といった話をしてほしい」と頼まれ、オンラインで話をしました。それは私がなぜジェンダーの問題、女性の困難や地位の向上に強い思いを持っているかを改めて振り返る機会になりました。以下当日話したことをご紹介します。

議員になろうとは全く やすい職場です。思っていない私がなぜ立候補したかという、当時全国で女性議員がいないうの2つの内のひとつが島根県だったこと、そのことを残念に思う女性にも課題であること、



## 日本はまだ男性社会でも女性の課題は男性の課題

性グループの活動があり声をかけられたこと、同時に県職員労働組合から組織内議員として出てほしいと声がかかったことです。今は女性達の長い運動の成果と時代の変化で、少しずつ女性の地位向上が図られ、女性の管理職も増えてきました。女性が働きやすい開かれた職場は男性にとっても働き

Qや障がい者の議員もあれば多様なある議会となり、どんな人でも住みやすい島根県になると思っています。今は議席をいただきたい責任をしっかりと自覚し、

女性の立場、女性の視点でDVや犯罪被害者支援、教育の充実、ワークライフバランスの推進などに取り組んでいます。

男性議員からは、最初は服装にばかり注目されたり、DV被害を取り上げると全く理解してもらえなかったり、生活臭のする小さな事ばかりだ、もっと大きな視点でものを言え、などと言われたりしましたが、今ではそれが当たり前と認めてもらっているように思います。

女性議員として、女性であることで悲しい思いをすることがないように、社会が少しでも多様性を大切に方向に変わっていきけるよう、性暴力被害者に呼応した#metoo運動や毎月11日のフラワーデモにも参加しています。

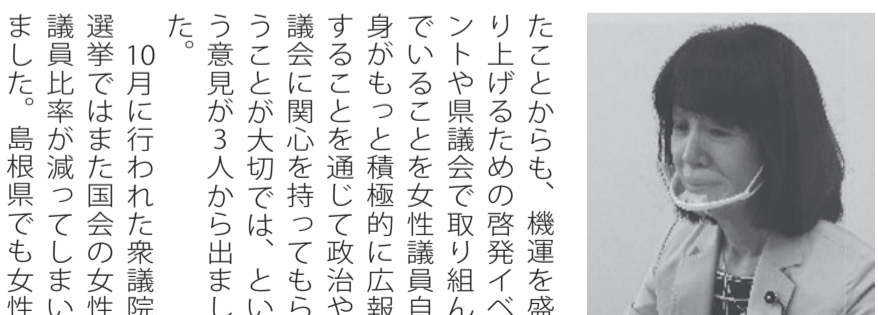
学生さんからは、女性議員に出やすくするのはどんな支援が必要か、男性もジェンダーバイアスで苦しんでいることがあるがどう思うか、などの質問をいただきました。先生から、いつもより多くの学生が出席し、とても一生懸命聞いてくれたと聞き嬉しく思いました。

### あすてらす座談会

## 女性の政治参画のために 女性議員の積極的な広報を!

2018年に「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」が成立したけれど、女性議員の増加につながっていない現状があります。そこで島根県立男女共同参画センター「あすてらす」の啓発誌「しまねの女と男(ひととひと)」第47号の特集として、島根県議会の女性議員3人が女性の政治参画の意義、増やす為の課題などを語るといふ企画をして頂きました。

今でも島根県議会の女性比率は8.1%で全国11.4%より低いのですが、私が立候補した2007年選挙前には女性比はゼロ、全国で女性議員ゼロの県議会は島根と富山の2県のみで、そのことを恥ずかしいと思う女性たちの活動があり、私も活動に参加していたことで決心しました。女性議員が増えないのは社会の「政治はやはり男性の分野だ」「女性は家庭との両立が難しい」といった無意識の偏見、「女性議員が増えても何も変わらない」という政治不信があること、でも先の松江市議選を見ても女性候補者が増えていて、少しずつ変わりつつあるのかもしれないことを話しました。



はくいし けいこ  
●白石 恵子さん  
島根県議会農林水産商工委員会副委員長  
松江市出身。2007年初当選、現在4期目。松江選挙区。

議員ゼロの町村がまだ3か所ありますし、1人しかいない市町村も6か所あります。

人口の半分は女性なのに、議会に女性がいないければ女性の願いや思いは国や県に届きません。もっというえ女性より数の少ないLGBTQの方や障がい者の声はもつと届きにくいでしょう。多様性のある社会を実現するためにも、まずは女性などの議会にももつと増えなければと思えます。

## 活発な地域活動 — 淞北台団地 —

### 淞北台いきいきライフを推進する会20周年記念式典

私の住んでいる公民館区に淞北台という団地があります。松江市で昭和40年代に県住宅供給公社が建設した勤労者向け住宅団地で、当時30歳代だった方々も高齢化が進んでいますが、入居当初から同世代が同時入居し、いずれ同



淞北台いきいきライフの会会長

時に高齢化が進行することを乗り越えて「みんな仲良く元気に老いていこう」として様々な趣味のサークルや健康教室の開催、「要配慮者支援」として映画の集いや独居高齢者のお楽しみ会など、「諸団体との連携」として親睦、交流、淞北台包括ケア会議の開催など様々な取組をされてきました。そのひとつに「いきいきライフを推進する会」があります。多くの活動の成果として自治会加入率は県営団地や警察官舎を含め95%を超え、高齢化率は松江市平均より10ポイント高い39.9%ですが、要介護認定率は0.2ポイント低いという素晴らしい成果を上げておられます。

高橋さんという偉大なリーダーがおられて引退してこられたことが大張ってこられたことが大

きく、この度知事から表彰を受けられました。今後高橋さんに代わる若いリーダーの誕生が待たれます。私は県営住宅の建て替え問題で少し関わらせていただいています。知れば知るほど淞北台団地の活動に感心するばかりです。直近では、以前ロータリーにあったスーパが撤退し、高齢者が買い物に不便を感じていることから、社会福祉法人みずうみの協力を得て、週1回店を開いてもらい、帰りには同じくみずうみが

